

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年1月20日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470101977		
法人名	有限会社 美泉		
事業所名	グループホーム うぐいすの家		
所在地	〒734-0041 広島市南区黄金山町6番5号		
自己評価作成日	令和1年12月4日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470101977-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470101977-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和2年1月14日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

平成12年開設の民家改造型グループホームです。階段や敷居がありますが、見守りと可能な範囲での段差解消で対応しています。町内会に加入し、地域の中のグループホームであることを大切にしながら、季節の行事参加を楽しんでいます。散歩や他のホームとの交流、お弁当を作り花見に出かけるなど外出の機会を心掛けています。入居者個々の力が発揮でき自信につながるようレクリエーションや作業など工夫しています。食事は出汁をとり、皆で一緒に作っています。事業所開設以来、家庭医の協力を得て、看取りを継続しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

開設時から町内会に加入し、地域行事に参加し、地域住民との関わりを大切に交流を深め、地域に溶け込んだ事業所である。食事は栄養バランスを考慮した献立の食材が業者から届けられ、事業所で調理をしている。利用者も下準備や盛り付け、後片づけなど本人の能力に応じて、出来る喜びに繋げている。職員も同じテーブルで同じメニューを頂き、和やかな家庭的な雰囲気である。地域がら高齢化が進むなかで、防災に関して安全第一を考慮し、系列事業所へ早目の避難をするなど、連携協力体制を整えている。一人ひとりの人生観を尊重し、個々の手作りアルバムを作るなど、気配り・心配り・思いやり・笑顔で接するを目標に掲げ、日々のケアに努めている。健康面に関して穏やかに、温かみのある寄り添う支援がなされている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人としての理念があり、その理念をもとに事業所で話し合い、年度ごとに目標をたてている。毎朝の申し送り時確認し合い、日々のケアにつなげている。	法人理念を周知し、理念を下に職員全員で話し合い事業所ごとに年間目標を立てている。今年度は「気配り・心配り・思いやり・笑顔で接する」を揚げ、半期ごとに評価、振り返りを行い、後半期には達成に向けて再度、意識を高め利用者に寄り添い、その人らしく暮らして頂けるよう実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、今年度は理事を受け、皆さんの助けを借りながら役を務めている。獅子舞や神輿がホームへ来られた時には、大変喜ばれていた。	町内会に加入し、日頃から町内清掃に参加、散歩時に挨拶を交わし、夏祭りは会場に出向き、秋祭りには神主・獅子舞・神輿が訪れ、獅子舞に触れる事ができ、利用者に喜ばれている。本年度は組長を引き受け回覧板を回し、総会に参加するなど、地域の一員として、地域との繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	推進会議や町内会の会議で質問を受け答えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2カ月に1回運営推進会議を開催している。事業所での様子を伝えている。民生委員さんからは町内の様子や行事を聞き、計画を立て参加している。	運営推進会議は日時を決め定期的に行っている。事業所の活動内容や状況報告を行っている。行政関係者や民生委員など参加者から頂いた貴重な意見を参考に今後の活動や日頃のケアに活かせるよう取り組んでいる。家族の参加が難しい中、便りと一緒に送付するなど報告に努めている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に包括支援センターより出席して頂き、事業所での様子を伝え、市町のお知らせをお聞きしている。又生活課の面会時には日頃の様子を伝えている。	市生活課担当者の定期的な訪問面談や地域包括支援センター職員の運営推進会議への参加もあり、相談や様子を報告している。行政主催の研修、勉強会に積極的に出席し、日頃から協力関係が築けるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>マニュアルを置きいつでも確認することが出来る。ベットの柵や玄関の施錠、言葉の拘束などを勉強会で学び、職員同士、日々注意している。</p>	<p>同系列グループホーム内の管理者で、身体拘束について、会議や研修を開催し、事業所に持ち帰り、利用者が安心出来るケアに繋がるよう、職員間で話し合っている。また、言葉による拘束も含め、身体拘束しないケアを心がけている。日中、玄関の施錠はしていない。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>勉強会や研修会で学んでいる。職員同士、お互いに気を付けている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>勉強会で学び、必要時には上司に報告し、つなげている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>重要事項説明書を用い説明し、納得頂き契約の締結を行っている。疑問点があれば、いつでも受ける事を伝えている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱を設置しいつでも気兼ねなく入れて頂けるようにしている。直接代表者に連絡されることもある。意見、要望があった場合話し合い改善が必要な場合には改善に取り組んでいる。</p>	<p>玄関に意見箱を設置しているものの苦情・意見はない。「有難う御座います」のお礼の言葉が書いてあり、その言葉を大切により良いケアに活かせるよう尽力されている。毎月家族へのお便りには運営推進会議の議事録や日頃の様子を職員手書きの手紙を添えて伝えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>申し送りやミーティングで意見等聞き、会議や代表者との話し合いを行い、業務に反映できるよう努力している。</p>	<p>日々の業務の流れの中やミーティングの時、職員の意見や提案を聴き、提案によっては代表者と話し合うなど反映に繋がるよう努めている。職員の希望休みなど業務内容に支障がないよう検討し、出来るだけ叶えられるよう努めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>申し送りや会議、各事業所への訪問で現状の把握に努めている。職員からの直接の申出ばかりでなく、管理者からの推薦などをうけ研修への出席支援やそれに伴う勤務時間の調整を行っている。資格取得時には報奨を行っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>管理者や職員からの申し送りや報告、事業所訪問により把握に努め、勤務年数等に合わせ、研修に参加できるよう案内や勤務時間の調整を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>地域の研修会や交流会に参加し勉強させていただいている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前には自宅や施設に訪問し、色々なお話しの中から困りごとや不安などの把握に努めている。必要時には何度も訪問し安心して入居できるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>相談があった時より、困りごとや不安に思っている事を聞き、それについての対応等を説明しながら、よりよい関係が作れるよう努力している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人や家族のお話を伺いながら、たとえ当施設に入居希望であっても、その方に合ったサービスが受けられるよう、一緒に考え必要時には紹介などしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>言葉がけに気を付けながら、共に家事や作業を行っている。その方の得意なところを活かせるよう働きかけている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>事業所に面会に来られた時や毎月のお手紙で様子をお伝えし、困りごとなど相談している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>馴染みの理容院にお連れしたり、昔歩いていた散歩道にお連れし喜んでいただいている。継続しかかられている病院に同行し、様子をお伝えしている。</p>	<p>本人・家族からお聴きし、入所後も馴染みの理容院や山登りをされていた利用者には、頂上までは登れなくても途中で一服、風景を楽しんだりしている。また、知人の方が息子さんと一緒に来訪されるなど、馴染みの場所、人との関係が途切れる事のないよう支援に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	相性に合わせ、ソファやテーブル席を決めている。職員が間に入り、作業やレクレーションを通して関わりが出来るよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院時や他の施設に転居される時には、情報提供や物品準備のお手伝いをしている。退去後も希望時には相談に乗っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントはセンター方式を用い、現状の把握や本人や家族の意向を把握し検討している。聞き取りが困難な場合には、表情や行動などから思いをくみ取り話し合いをしている。	入所時に利用者・家族、関係者に思いや要望を聴いている。又、日常生活の何気ない言動や困難な場合は表情、さりげない仕草、動作に気づき汲み取り、申し送りノートや生活日誌に記録に残し、職員間で共有し、希望や意向の把握に努めて本人本位の個別ケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族、関係者から話を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活日誌に日々の様子を記録し、職員全員が把握できるようにしている。特に注意することなど申し送りノートを活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>センター方式を用いアセスメントをしている。日頃の様子や会話、面会時などの家族とのやり取りなどから思いをくみ取り、アセスメントし話し合い、計画を作成している。</p>	<p>本人・家族の思いや要望、日頃の様子をセンター方式でアセスメントを行い、本人本位の介護計画書を作成している。毎月モニタリングを行い見直し、4ヶ月毎にアセスメントを行い、職員全員参加の話し合いを実施し、意見やアイデアが反映された、現状に即した無理のない介護計画書を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別の生活日誌に毎日の様子や行動、会話や体調を記録し職員間で情報を共有し、介護計画にも活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>通院や入院時の準備、手術時の付添など家族のおられない方や家族の都合により支援している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>体調や天候に合わせて散歩に出かけている。黄金山のふもとに位置するため、季節を通して緑や花や鳥の鳴き声があり、楽しめている。近所の方からよく話しかけて頂き嬉しそうに会話されている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人と家族の希望に添って、かかりつけ医を決めている。事業所の協力医をかかりつけ医にする場合には、本人と家族の同意を得ている。病状に合わせて専門医に紹介し、適切な治療が受けられるよう支援している。</p>	<p>本人・家族に説明、かかりつけ医の希望を聴いている。他科への受診、専門医の受診は協力医の紹介状を持参し職員が同行受診、適切な医療が受けられるよう支援している。家族に受診結果や情報報告を行い共有している。法人内に看護師も常駐している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>いつもと違う様子などの気づきがあれば、看護師に報告している。必要時には受診に付添、適切な治療が早期に受けられるよう支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時にはサマリーで情報提供を行っている。毎日、面会に行き様子を聞き必要時には食事介助を行っている。早期退院できるよう、医師や看護師と情報交換を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時に看取りを行っていることを説明している。希望があれば、病状にはよるが、協力医、本人、家族、職員と話し合い方針を決め取り組んでいる。</p>	<p>入居時、終末期について説明している。重度化した場合、改めて家族に説明し家族・医療機関・管理者・職員など関係者と話し合いを持ち方針を決め、情報を共有し連携を図っている。最期までその人らしく過ごして頂けるよう、チームで支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>対応マニュアルを置き勉強会で学び、力を付けられるよう努力している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>避難訓練を年二回行っている。法人全体で連絡体制を組み、災害時用の備蓄をしている。町内会の総会で話し合いがあったが、高齢化が進み誰かが誰かを助ける事は難しくなっているので、お互い声を掛け合い早期避難をしてほしいとの要望だった。</p>	<p>年2回、夜間想定して避難訓練を実施し緊急時のマニュアルも作成している。地域がら高齢化も伴い、レベル2の警報が発令されると、安全な系列事業所のグループホームに早めに避難している。災害時の備蓄品も本部に準備しており、協力体制も整っている。</p>	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
備蓄品					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	優しく丁寧な言葉がけを心掛けている。上から目線に決してならないようにしている。同じ事を何度も質問されても、快く答え、一人の職員が対応しきれなくなれば、他の職員に代わり対応するなどしている。	接遇や人格の尊重について、勉強会で知識を深め、情報を共有し、一人ひとりの人生の歩みや拘りにも留意し、言葉掛けや声掛けにも不安や不快な思いにならないよう配慮し、本人に寄り添う支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の生活の中で、飲みたいもの、食べたいもの、したいことなど自分で決める場面を設定し自己決定できる場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	毎日の日課は決まっているが、その中で体調やその日の気分などに合わせ過ぎて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日中は自分の着たい服に着替え、お化粧する方には物品がなくなれば、買い物に出かけたりしている。外出時には帽子やスカーフなど好みのおしゃれを楽しんで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員と利用者と一緒に食事を作っている。誕生日会では希望のメニューにし、お花見ではお弁当を作り楽しんで頂いている。毎週一回お刺身の日があり、皆さん楽しみにされている。	食材は業者の配達である。木、土曜日の朝食はパン食、毎週火曜日の夕食は馴染みの魚屋の新鮮な刺身の日である。誕生日は希望メニューや手作りケーキで皆で過せた喜びを祝福している。利用者は玉葱の皮むぎなど本人の能力に応じて出来る事を行っている。職員も同じテーブルで食事を頂くなど家庭的な雰囲気となるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養士が立てた献立を使用し、毎日の摂取量を生活日誌に記録し、摂取量が少ない場合には捕食して頂いている。摂取状況により一口大に切ったり、柔らかか食などの別メニューにするなど配慮している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後口腔ケアを行い、自力困難な方には介助をおこなっている。必要に応じて歯科受診をしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>生活日誌に記録し、排せつのパターンの把握に努め声掛けや介助を行っている。チェック表を用い排便の確認を行い、便秘には十分気を付けている。</p>	<p>生活日誌やチェックシートで排泄パターンや排泄状況を確認し、個々のタイミングを把握し、誘導の声掛けを行い自然の排泄を促している。夜間にはポータブルトイレを使用したり、小まめな声掛けを行い、トイレに座って排泄出来る支援に繋げている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便チェック表を用い排便の確認を行い、水分や運動、繊維のある食べ物などを提供し便秘にならないよう気を付けている。起床時牛乳を飲用して頂くなど工夫している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>毎日入浴できるようお風呂を沸かしている。最低でも週三回は入浴して頂いている。季節に応じてしょうぶ湯や柚子湯を楽しんで頂いている。体調に合わせて、シャワーや清拭をおこなっている。</p>	<p>本人の体調を踏まえて、週2～3回午後浴である。時には季節を感じる事が出来るようゆず湯や、入浴後は、医師処方保湿クリーム、乳液を使用し、皮膚の乾燥にも考慮している。週1回必要があれば2回体重測定を行い、体重変化や健康管理にも気配りをしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>食後には一時間程度ベッドでや 休んで頂いている。日中は散歩 や活動を促し生活リズムを作り、 適度な疲労感を作り夜間の安 眠へとつなげている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>薬の説明書で副作用等確認し理 解している。投薬時には誤薬の ないように充分注意し、名前と 日付を声を出して三回は確認し ている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>毎日の生活の中で、その方に合 った作業やレクリエーションを 取り入れ力が発揮できるよう支 援している。季節の行事やお誕 生生日会に楽しく参加して頂 いている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。</p>	<p>天候や体調に合わせ毎日散歩に 出かけている。季節に合わせ花 見や外出し、皆さんに楽しんで 頂いている。</p>	<p>毎日の散歩や事前の下見をし、 安全・安心確認を行い、花見弁 当持参で外出している。体調な どで外出出来ない利用者にも 事業所内で同じ花見弁当を食 べて頂いている。レストランへ 月1～2回出かけ、自分で好き なメニューを選べる喜びなど、 楽しみに繋がる支援もしている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>家族より預り金として現金出納 帳を作り預かっている。希望時 にはいつでも使ってもらってい る。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話の子機を使用しいつでも話ができるようにしている。手紙の希望時には、投函のお手伝いをしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>必要以上の電気の明かりは使わず、自然光で生活している。不快なおいがこもらないよう換気に気を付けている。季節の壁画や花などを飾り、窓外の景色を一緒に楽しんだりしている。</p>	<p>掃き出しの窓から自然な採光や窓からの木々の色彩など自然を感じる共有空間である。壁面にはさりげなく季節感を感じてもらえるよう展示物が飾られている。昼食後はテーブルを片隅に配置し、ソファに座ってテレビを見られる方、居室に帰られ寛がれる方など思い思いに過ごされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>いつでも一人になれるよう、ソファや椅子の配置をしている。仲の良い方同志で並んで座りテレビを見たり、話をしたりされている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>自宅で使われていた家具や馴染みのものを持参して頂き、できる限り居心地の良い安心できる居室づくりを心掛けている。</p>	<p>居室はそれぞれ異なった部屋作りをしていて、使い慣れた調度品や大切に使ってこられた趣ある鏡台、ぬいぐるみ、遺影や仏壇など、居心地よく寛いで過ごせるよう工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>手すりやバーを設置し、段差も解消できる限り解消に努めている。トイレや浴室、自分の居室を表示しわかりやすくしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームうぐいすの家

作成日 令和2年3月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	消防訓練の充実。	消防士さんに参加して頂き、訓練を行いアドバイスを受ける。	秋の訓練で消防士さんに参加をお願いします。	1年
2	4	運営推進会議の出席者に変化がない。	運営推進会議の参加者が増える。	運営推進会議の参加の呼びかけをしていく。	1年
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。